

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「ともに生きる社会をつくる子どもを育てます」
- 相手の話を聞き、粘り強くやりとげられるようにします。(知)
- 互いを認め合い、高め合うようにします。(徳)
- 自他の生命を大切に、健やかな心と体を育みます。(体)
- よいこと悪いことを判断し、進んで行動できるようにします。(公)
- 様々な人とのコミュニケーションを通して、視野を広げられるようにします。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- ・自分づくりに関する力
- 小・中9年間で4つの資質・能力「自己有用感・学ぶ意欲・コミュニケーション能力・規範意識」の定着を図ります。(ブロック共通)
- ・言語能力

具体化した資質・能力

- ・自分らしさを発揮しようとする姿勢
- ・他者を理解する態度
- ・自己を理解する姿勢
- ・伝え合うことで自分の考えを深化させる力
- ・つながりを考え、合意形成する姿勢

中期取組目標

- 「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを推進します。
- ・児童理解に努め、安心できる居場所づくりと子どもの自己有用感を大切にします。
- ・人と人とのつながりを基盤とした学校づくりに努めます。
- ・家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりに努めます。
- ・全教職員が主体的に学校経営に参画していくようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①自ら課題や学習内容を捉えられるような学習活動を計画し、より多くの子どもたちが主体的に表現できるようにする。 ②チャレンジタイムでは、「基礎学力の向上」をめざし、子どもたちの実態に合った課題を設定する。
担当	重点研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況

学力・学習状況調査の意識調査の結果より、全体的に横浜市の平均を下回っている。学習に対する意識の項目でも、平均を下回っていた。また、「自分のことは好きか」や「自分にはよいところがあるか」などの自己肯定感に関係する項目でも、平均より低いことが分かった。(差が大きかった学年で、市平均の半分にも満たなかった)また、学力が低い子どもたちほど、自己肯定感が低いこともわかった。本校では、特に自己肯定感の向上を根拠とした取り組みを行うことで、学力の向上へと繋げていきたい。

また、本校では、経験年数が浅く、授業実践の回数も少ない教員が多い。子どもたちの学力向上は、教師の授業力向上なくしては成り立たない。様々な経験年数の教員で構成されたチームを中心に研修や研究をしていくことで、教員全体の授業力の向上を図りたい。

今年度の目標

自ら課題や学習内容をとらえて自分の思いや考えをもち、主体的に表現し合う(いきいきと伝え合う)子どもたちを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高める <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感のアンケートを取り、現状の把握をする。 ・「認め合う」「つながり合う」という言葉を用いて、意識づけを図る。 ・チャレンジタイムの活用の仕方を理解する。 ・フックンタイムで読書の習慣をつける。 ○言語環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・「伝え合う」ために必要な語彙や表現力を育むための取組を提案。 ・口型や話型の掲示 ○個人テーマの設定 <ul style="list-style-type: none"> ・教師が研究仮説に基づいたテーマの設定をし、意識的に取り組む。 ○チームによる研究 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に授業研究会の実施、課題に合わせた研修の計画をし実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高める <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感のアンケートをもとにした指導を行う。 ・「認め合う」「つながり合う」という言葉を子どもたちが使っていけるように指導していく。 ・チャレンジタイムで自ら課題を選択し、取り組むことができるようにする。 ・フックンタイムで読書の習慣をつける。 ○言語環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・口型や話型を活かして考えを伝えられるようにする。 ・マイ辞書を袋に入れて机の横にかけておき、いつでも調べられるようにしておく。 ○個人テーマの設定 <ul style="list-style-type: none"> ・個人テーマをふりかえり、指導に活かす。 ○チームによる研究 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム毎に授業研究会の実施、課題に合わせた研修の計画をし実施する

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①全教職員の人権意識を高め、人権教育構想図に基づく教育活動の見直しと改善を常に行い、誰もが安心して豊かに学校生活を送ることができるようにする。 ②人権週間の取り組みに加え、年間通した計画的な横浜プログラムの実施、アセスメントを活用した「アさん」やクラスの見とりに行う。
担当	人権運営委員会

豊かな心に関わる本校の状況

・外国籍・外国につながる子が全校の約30%いることや、校内でつながっている中村特別支援学校との授業を通じた交流を続けてきていることなどから、互いのちがいを当たり前としてとらえられている子どもが多い。

・家庭内の不和や経済的な不安、学習の難しさ、友達関係など様々な要因により安心してきていない子どもが多い。

・「認め合いつながり合う」ことを意識した「アさん」を中心とした学級づくりや人権週間の取組により、子どもたちは、互いに仲間意識をもちながら、認め合ったりかわり合ったりするようになってきている。

今年度の目標

誰もが安心して学校生活を送れるようにするとともに、アセスメントの結果から横浜プログラム等に取り組み、子どもの自己有用感を高めていけるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員の人権意識向上 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに本校で取り組んできた人権教育の流れを共通理解する場を設定する。本校とつながりや地域の歴史を知り、正しい知識と豊かな感覚をもって人権教育に関わることができるようにする。 ○「アさん」の共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が「安心してきていない」と考え設定した「アさん」を共有する場を職員会議で設ける。互いの「アさん」を知ること、研究授業や日頃の場面など全職員で子どもの姿を見とっていけるようにする。 ○YPAアセスメントを生かした支援検討会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学級風土チェックシートと子どものアセスメントを用いて、学年研で支援検討会を実施する。その後、クラスに合わせた「横浜プログラム」を活用した実践をし、一人ひとりの子どもが自分自身をしっかり見つめ、思いを出し合ったりつながり合ったりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○YPAアセスメントを生かした支援検討会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・11月の結果を5月の結果と比べ、クラスの様子をとらえられるようにする。支援検討会を実施し、クラスに合わせた「横浜プログラム」を実践することで、学級全体の傾向をよりよくしていくとともに、子どもたちが生き生きと過ごすことができる学級集団作りをめざす。 ○人権週間の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・児童委員の劇を中心とした「心のキャッチボール集会」を行う。学校生活での一場面を取り上げ、自分だったらどうするか、どうしたいかについて、たてわり班で友達と思いや考えを交流する。自分をふり振り返りながら友達の考えや感想を聞き合い、認め合い、つながり合うことについて考えられるようにする。 ○人権教育を語り合う会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・12月3週めに「人権教育を語り合う会」を行う。今年度は全市公開を行う。他校の教職員や関係機関の方と人権教育についての意見交換することを通して、さらに教職員の人権感覚を磨くことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①「体力向上」をめざし、休み時間後のランニングや各イベントなどを児童会活動を基盤に実施する。 ②「一生使える健康な歯」をめざし、歯科保健教育を実施し、歯みがきの習慣を培う。
担当	体育部・食育部・養護部

健やかな体に関わる本校の状況

本校の子どもたちは、休み時間はどの学年の子どもも元気よく校庭で遊んでいる。また、放課後、学区の公園や校庭で友達とよく遊んでいる姿が多く見られる。このことから遊びを中心とした運動には関心が高いことがわかる。また、日常の体育学習による指導の成果も少しずつ表れている。しかし、横浜市体力・運動能力調査の結果では、体力・運動能力の項目と生活実態の項目ともに横浜市の平均を下回っている。特にクラブチーム等に入っていて運動習慣のある子どもと、そうでない子どもの結果に大きく差があることがわかった。この結果をうけ、学校での取り組みによって運動に関心をもち、日常的に体を動かす習慣を育てることで、子どもたちの体力向上を図りたい。

また、健康面では、歯磨きの習慣が身につけていない子どもたちが多く見られる。そのため、歯科保健教育を実施することで、改善を図りたい。

今年度の目標

運動の楽しさを理解し、日常的な運動習慣を身につけることで体力の向上をめざす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくりでいろいろな体の動きを経験することで、運動の楽しさを味わえるようにする。 ○各領域での学習 <ul style="list-style-type: none"> ・各領域において、資料を用いながら基礎的な運動技能を身につける。 ○児童会活動を基盤とした取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動で計画した「体力づくり集会」に参加する。 ○歯磨き <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ・体づくりでいろいろな体の動きを経験することで、運動の楽しさを味わえるようにする。 ○各領域での学習 <ul style="list-style-type: none"> ・各領域において、視聴覚等の資料を用いながら発展的な運動技能を身につける。 ○児童会活動を基盤とした取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動で計画した「体力づくり集会」に参加し運動習慣のきっかけを作る。 ○休み時間後のランニング習慣 <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間終了5分前にランニングを行い、自己の体力向上に関心をもつ。 ○歯磨き <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健教育の実施